

鹿児島県工業技術センターの情報処理システムについて

電子部 ○永吉弘己

1. はじめに

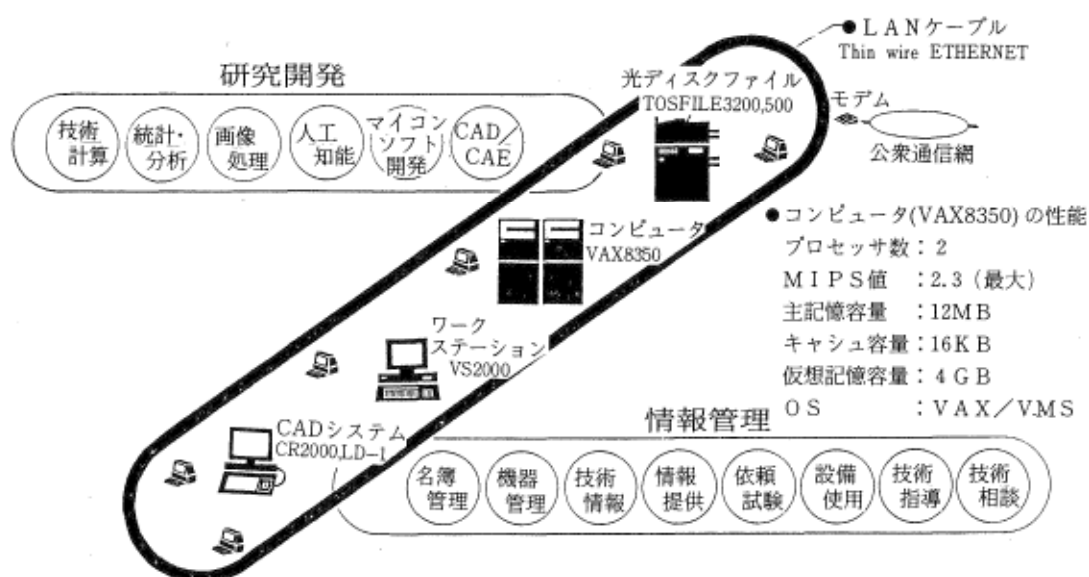
当センターの情報処理システムは、昭和62年12月のセンター開所時に整備され、コンピュータ、光ディスクファイル、ワークステーション及びパソコンにより有機的に構成されている。ワークステーションとパソコンはイーサネット (Ethernet) により、ホストコンピュータに接続されており、TSS端末としての機能を有している。このシステムの情報管理への利用について検討した。

2. センター内における情報管理

センター内の業務に関係する情報には、技術文献や業務管理等の情報がある。これらの情報管理にコンピュータを利用した場合、次の3つの利点が考えられる。

- (1) 情報をデータベース化することにより、情報の有効利用を図ることができる。
- (2) 情報を1カ所に集中することは、データの一元化及び共有性の面において優れている。
- (3) LANを利用することにより、身近な場所でのデータ入力や検索ができる。

第1図は情報処理システムの概要を示したものである。



第1図 鹿児島県工業技術センターの情報処理システム

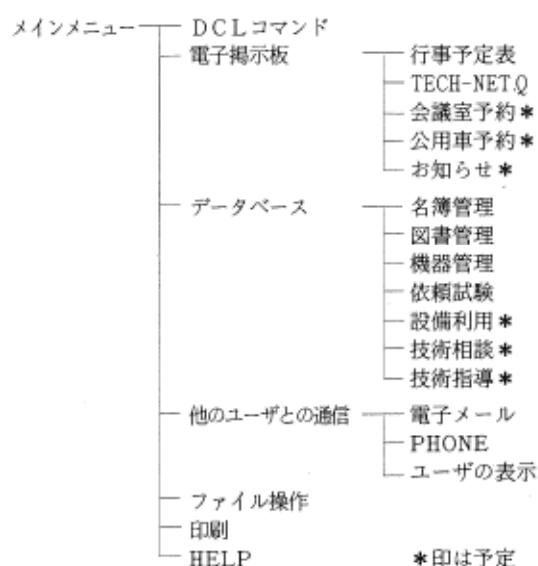
3. プログラムの作成

情報管理のプログラムを作成するにあたり、検討した基本的な考え方は次の3点である。

- (1) 使いやすいこと
- (2) 実用的な応答速度があること
- (3) 共同作業・利用ができること

上述の基本的な考え方をもとに、情報管理に必要なプログラムを実際に作成し、その実用化を進めている。

第2図は今回作成したメニュープログラムの構造を示したものである。



第2図 メインメニューの階層構造

4. 考 察

今回作成したプログラムについて、半年程度のテスト運用をした結果、実用上満足できることが確認されたが、次の問題点がある。

- (1) データベース用のプログラムは、データ操作言語（DML : Data Manipulation Language）で作成しているが、インタプリタをプロシージャ化したものであるため、プログラムの起動時に時間がかかる。
- (2) ワープロの文書ファイルのサーバとしての機能を有しているが、一般ユーザにとってはコマンド入力複雑である。
- (3) データベースについてはカード型データベースに見られるように、フルスクリーンモードでの入力や修正等ができない。

今回は情報管理用のプログラムについて、その優先的なものについて作成した。今後、上記の問題点について改良を進め、また第2図の予定の部分についても作成し、その実用化を進めていく。

さらに、研究開発業務へのコンピュータの利用を促進するとともに、講習会等の開催を通して、センター外への利用も推進する予定である。